

第6分科会 「社会を形成する力」の運営概要

【研究課題】

社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

【リーダーシップの視点】

- 1 社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造
- 2 自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善

I 分科会研究協議の運営計画

【リーダーシップの視点1について】

- ・昨年度の視点1では、キャリア教育の要素との重複を整理し、新たな視点として設定した。その中で、社会的な変化により、子どもたちは家庭や地域において、社会性を高めたり、人間関係の構築を育む機会が減っていることを受け、学校には、地域や家庭と連携しながら多くの人々とかかわり社会とかかわりを豊かにしていく力の育成が求められている。そのためにも、「どう地域との結びつきを醸成する機会を設定するか」「地域の一員としての自覚を促す取り組みはどうあればいいか」など、社会に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための校長としての具体的な策を明らかにしていく。

【リーダーシップの視点2について】

- ・視点1は、地域とのつながりや地域との関わりを作る、深めるための学校の動きを創り出す校長のリーダーシップについて探っていくという学校と外部との連携が主となるが、視点2では教育課程の編成、実施の段階で学校自らが地域とかかわりを深めるために各教科の特性を意識した学習内容や地域素材の活用など、学校が主体的になって取り組むべきものの整理や教科で醸成した知識や技能を社会の活動に積極的に活用する姿や態度に育てていくための校長の在り方について明らかにしていく。

【討議の柱】

- ① 地域の活動を生かす学校の教育活動との関わりと校長の指導性（校内での関わり・地域での動き）
- ② 社会を形成する力を高める教育課程の編成と校長の関わり。

II 昨年度までの課題

～ 渡島・北斗大会から ～ （平成25年度より新設された分科会）

- a まず、「社会形成能力」をどのようにとらえればいいのかを明確にする必要があること。
- b 次に、「社会形成能力」の育成を推進する教育課程をどのように編成、実施していけばいいのかを考える必要があること。
- c キャリア教育との違いを明確にしなければならないこと。
- d いずれにしても、教育課程編成のポイントとして、どの学年でも「他者へ関わる・集団に関わる」ことを原点とした取り組みを構築することが大切であること。

a～cについては、本分科会の根幹にかかわることであるため、今年の1月の段階で、整理し「社会を形成する力」という分科会に変更になったことから、これらの課題はクリアーされたと考えている。キャリア教育の中に位置づけられている「社会形成能力」は、「仕事に就くこと」に焦点を当てて整理した能力の一部として示されているが、本分科会は「自分の役割を果たしつつ、他者と協力して社会の様々な活動に参画し、今後の社会を積極的に形成していこうとする力」として「社会を形成する力」となったことを踏まえて、今後の研究を進めていくことが重要である。

Ⅲ 研究発表の概要

研究発表者 帯広地区 帯広市立緑丘小学校長 山崎 則夫

発表題 社会を形成する力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

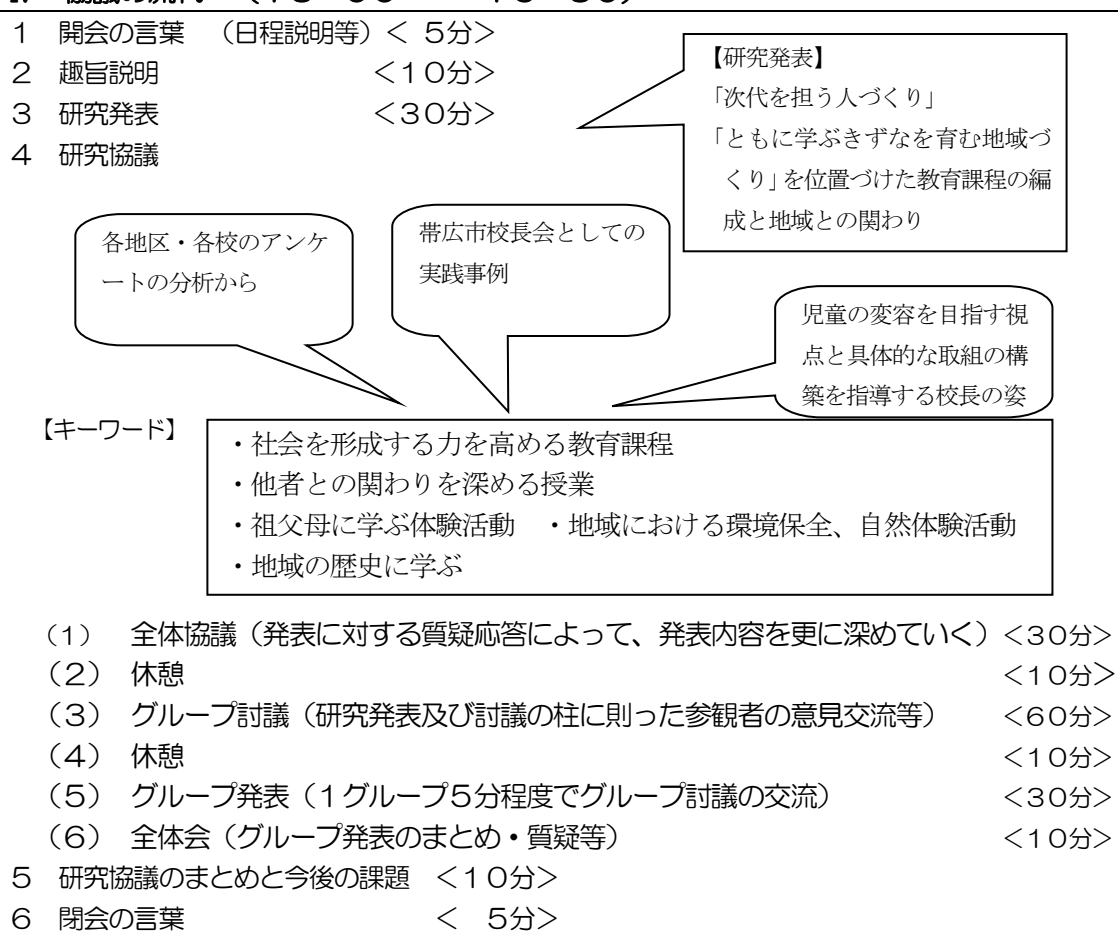
視点 (1) 地域に貢献する力の育成を目指す教育活動を創造するための校長の役割と指導性。

(2) 自立した社会人として生きていく基礎となる力を付けさせる教育課程の編成・実施・評価・改善のための校長の役割と指導性。

発表の主張点

- ・帯広市教育基本計画と本分科会リーダーシップの視点の関係
- ・帯広市「絆を育む学校づくり支援事業」における地域と学校
- ・社会を形成する力を高める教育課程の編成

Ⅳ 協議の流れ (13:00 ~ 16:30)



Ⅴ 本分科会に参加される皆様へ

特段、資料等のご用意は不要です。が、グループ討議と全体討議を関連付けて深めるために、自校や町村として以下の取組について、話題提供をお願いすることがあります。

☆ 地域と連携して学校の教育活動に位置づけて取組んでいること・ものがありますか？

☆ 児童の「他とのかかわり合いを深める」ことを重視した取組みの具体（授業・学校行事を含めて）

また、自分の地域で、そのような取組を推進するためにお聞きしたいことなどがありましたら、グループ討議や全体討議の中でお話してください。